

生き

正伝の仏法を慕う

下 石川 和幸

ワシントン・ポストやニューヨーク・タイムズなど数紙を抱えて弁護士M・E子が「大変だあ、大変！」と朝のカフェテリアに駆け込んできた。そこは国連第四回世界女性会議の準備会合（一九九五年三月）が開かれていたニューヨークの国連本部でした。どの新聞も一面で「トウキョウでテロリズム」と報じている。日本から来ていた総理府（当時）などの女性官僚や私たち非政府組織（NGO）の参加者たち皆の全身から血の気が引いた。「オウム真理教」の地下鉄サリン事件は私を変えました。

永平寺で戒律を授かり、「戒名」をミドルネームとしてパスポートに入れていた私。それまでは、ただ仏教徒として生きてゆけばよいと思っていた。しかし「オウム」事件の翌年、私は剃髪し、僧形をとり、俗世の仕事と暮らしかから離れた。...

からです。それを強く主張したのが道元禪師でした。男尊女卑を厳しくいさめている道元の言葉を「正法眼蔵」から少し紹介します（筆者意訳）。
◎年上だから実務が長いからというだけで本質を把握していない男に何の必要があるのか。得法の女を登用しなさい（得法とは、

◎すぐれた結果をもたらすはたきや能力を、性別とは関係なく登用しなさい。
◎日本国にひとつの笑いごとあり。結果と称して女を入れないことだ。結果は心が造っているのです。
◎善の行いの極位は差別をしないこと。
仏法において生きとし生

しなればならないとしたのです。それから四十余年、日本の生活レベルは世界最高水準に達し、国際化、情報化は目覚ましく進展しました。しかし女性差別の解消と地位向上は一体どれほど進んだのでしょうか。
日本における男女不平等の原因の一つに伝統仏教の教団における女性差別の現状が影響していないと言えるでしょうか。権威権力は男にという特権意識を補完する装置となっていないでしょうか。

女性差別は愚の極み

伝統教団こそ自省を

「ものごとのあり方の本質を把握した」という意味。
◎得法の女を訪ねて行って学ばずとするのは、優れた男だからするのです。

けるものは全て平等であり、「男女差別は愚」以外の何ものでもない、確固たる信念をもって道元は断言しました。しかし伝統仏教教団の現実はまだ大きく違っていました。

入は托鉢だけということになるのです。有望な僧侶の養成を目的とする修行と学問の根本道場である本山僧堂から尼僧は除外され、寺格、職位、役員など全てにおいて周辺に置かれ続けま

「男児なにもてか貴ならん。男女を論ずることなかれ。これ仏道極妙の法則なり」（『正法眼蔵』）
女性差別という慣行を自省し、釈尊と宗祖の教えを

◎女は性欲の対象だとみるのなら、男は男色の対象となる。ならば女も男もすべてを排除しなければならぬ。人を性の対象とみるのは愚の極みです。

男僧は小僧になったばかりのお経もろくに読めない時分から経本や生活に必要な

七五年、第一回世界女性会議は女性を下位の人間と

普遍的価値「平等」を具現する。これが人々の心の